

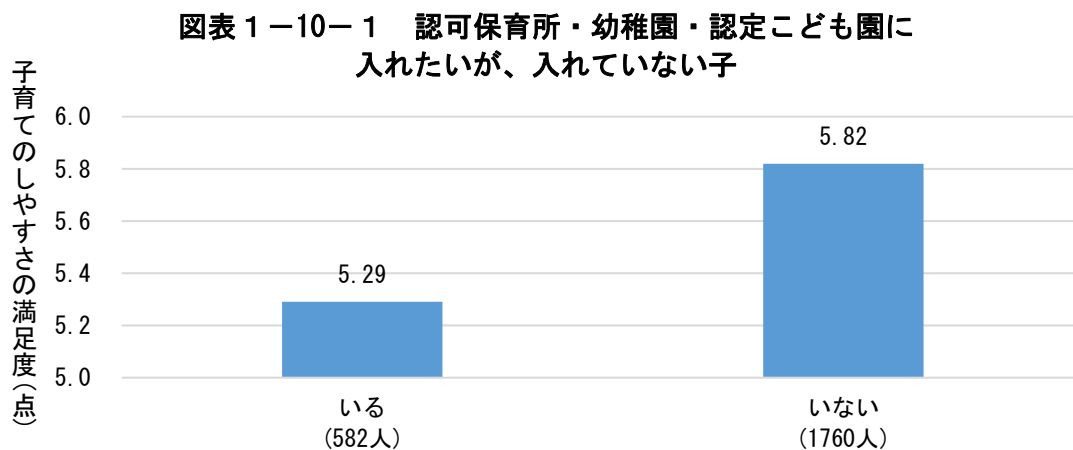
X 子育てのしやすさ

1. ダッシュボード指標の妥当性の検証

2019年7月に公表したダッシュボードでは、子育てのしやすさに関する指標として「保育所待機児童数」、「育児休業取得者の割合」「子供の学習費総額」を採用した。ダッシュボード指標の妥当性を検証するため、これらの指標その他の関連指標について、「子育てのしやすさ」の満足度(平均値)の間の関係を分析していく。

①保育所等利用待機児童数

認可保育所・幼稚園・認定こども園に入れたいが、入れていない子がいる者の満足度をみると、いない者に比べて「子育てのしやすさ」の満足度は低くなっており、「保育所待機児童数」のダッシュボード指標としての有効性を示唆している。



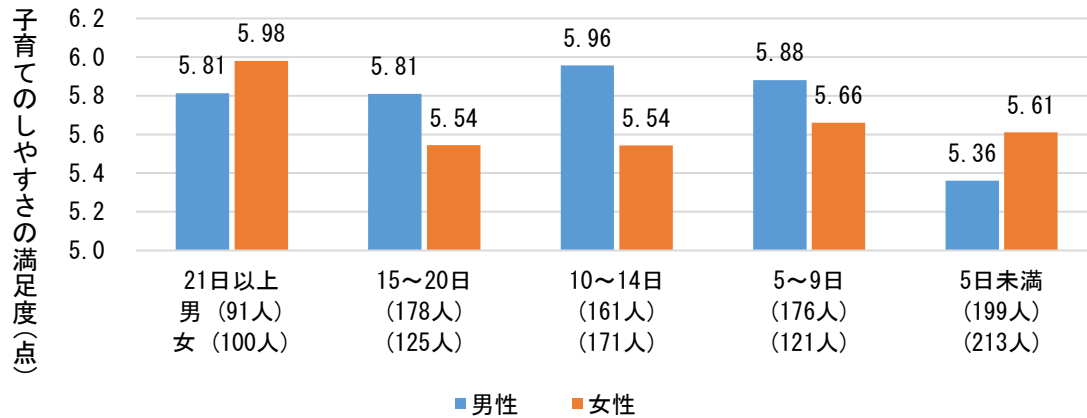
(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査
(2019年調査・2020年調査)

②育児休業等の取得

子のいる就業者の年休取得状況と「子育てのしやすさ」の満足度との関係を見ると、男性では、年休取得が10～14日の者の満足度が最も高く、それ以上の日数になると満足度が低下している。一方、女性は年休取得が21日以上の者の満足度が最も高くなっている。

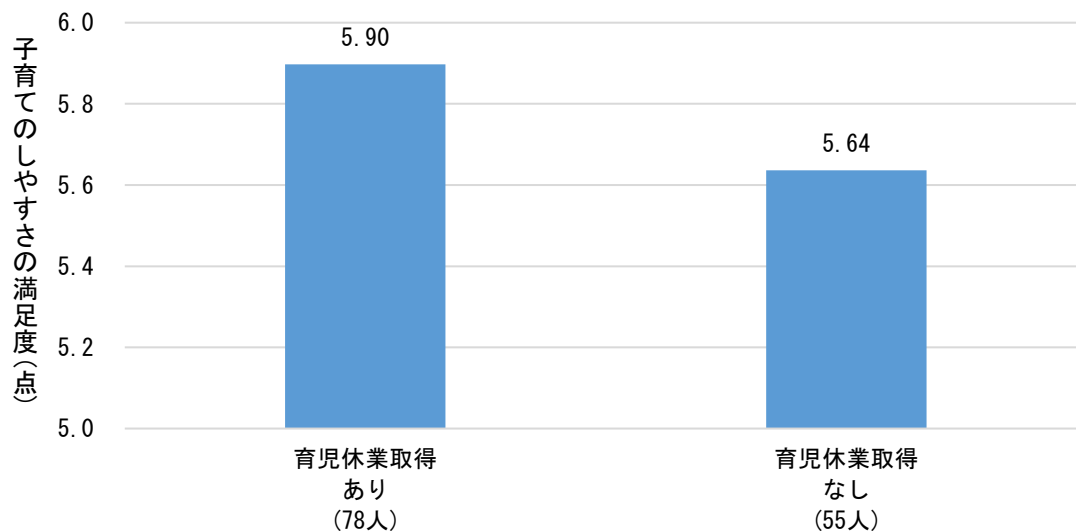
また、育児休業の取得と「子育てのしやすさ」の満足度との関係を見ると、夫婦いずれかのうち一人でも育児休業取得のある世帯では、夫婦いずれも育児休業取得のない世帯よりも満足度が高くなっており、育児休業取得者の割合の、ダッシュボード指標としての有効性を示唆している。

図表 1-10-2 子のいる就業者の年休取得状況と
子育てのしやすさの満足度



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2020年調査)

図表 1-10-3 世帯の育児休業取得状況と
子育てのしやすさの満足度 (0歳の子を持つ女性)



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2020年調査)

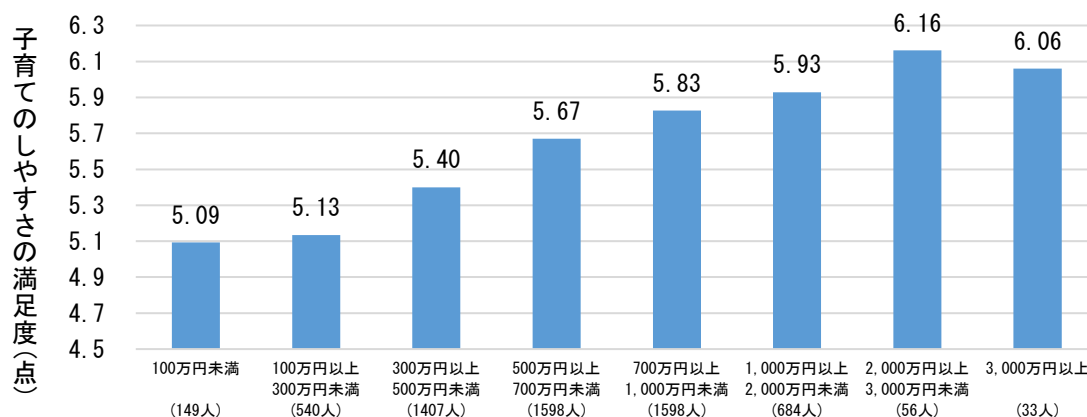
③その他の指標

子育てに要する教育費用等の経済負担の大きさは、子供を持たない理由の1つとされている。2019年調査でも、「子育てのしやすさ」の満足度に影響しているものはどれか、との質問に対する回答の上位(1位)が「保育や教育など子育てにかかる費用」であったことから、ダッシュボード指標として「子供の学習費総額」を採用している。

一方、別の角度から捉えると、収入が多い世帯の方が教育費をねん出しやすく、世

帯収入が子育てのしやすさに影響すると考えられる。個票分析によると、世帯年収は多いほど、「子育てのしやすさ」の満足度は高くなる傾向が確認できる。

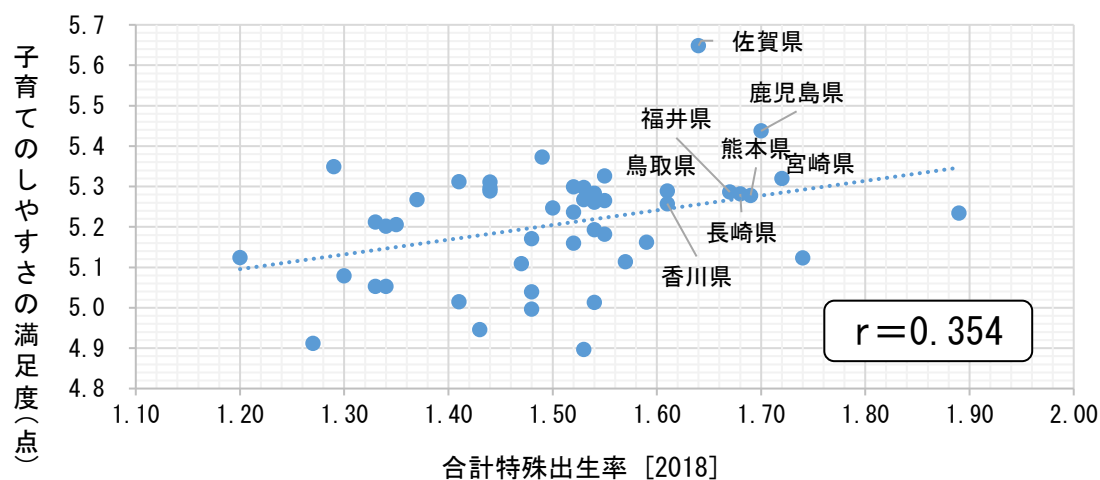
図表 1-10-4 世帯年収と子育てのしやすさの満足度
(子育て世帯)



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2019年調査・2020年調査)

これまで見た要素は、いずれも「子育てのしやすさ」を構成する要素であった。では、子育てがしやすい地域は、すなわち出産しやすい地域であるといえるのだろうか。そこで、「子育てのしやすさ」の満足度と合計特殊出生率との関係についてみると、相関係数が0.354と高い相関が示されており、「子育てのしやすさ」の満足度が高い都道府県ほど、合計特殊出生率は高い傾向にあることが確認できる。このため、「合計特殊出生率」をダッシュボード指標として採用することとする。

図表 1-10-5 都道府県別 子育てのしやすさの満足度と
合計特殊出生率の相関



(出典) 厚生労働省 人口動態調査

内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2019年調査・2020年調査)

2. 「子育てのしやすさ」の満足度を客観的に示す総合的な指標の作成(試行)

前節では、都道府県レベルで、「子育てのしやすさ」の満足度と相関のある客観指標を確認することができ、「子育てのしやすさ」の満足度が、出生率と相関関係を有していることがみてとれた。そこで、子育てには多面的な側面があることを鑑み、複数の指標を合成することで、「子育てのしやすさ」の満足度を客観的に示す総合的な指標を作成することを試みることにした。

総合的な指標の作成方法として、①単純合成法(各客観指標を標準化(ここでは z 値を算出)して合成)、②多変量解析法(主成分分析等による重みをつけて合成)の2つのパターンを採用した。

「子育てのしやすさ」の満足度を表す客観指標としては、出産、子育て支援環境(乳幼児期、就学前)の面からとらえることとし、これらの面に対応する指標を選定した。出産に対応する指標として「合計特殊出生率」、子育て支援環境に対応する指標として「育児休業者割合」及び「保育所等利用待機児童数」、なお、一般的に出産は、子育て可能な見通しを基盤とする判断の結果との解釈が可能であり、子育て可能な状況・環境を示す目安的な指標と位置付けられる。試算結果は以下のとおりである。

試算結果をみると、単純合成法では相関係数は約 0.5 と高い値となっている。他方、多変量解析法(主成分分析)によって得られた主成分との相関は 0 に近くなっており、相関の強い主成分は得られなかった。複数の成分があると見込まれる。

(1) 選定指標

指標	単位	調査・統計	年	分野別満足度との相関	指標の意味	備考
合計特殊出生率		人口動態統計	2017	0.33	出産(子育て可能な見通し)	
育児休業者割合	%	就業構造基本調査	2017	0.19	子育て支援環境(乳幼児期)	
保育所等利用待機児童数(在所者数に対する割合)	%	保育所待機児童数の状況	2018	-0.11	子育て支援環境(就学前)	

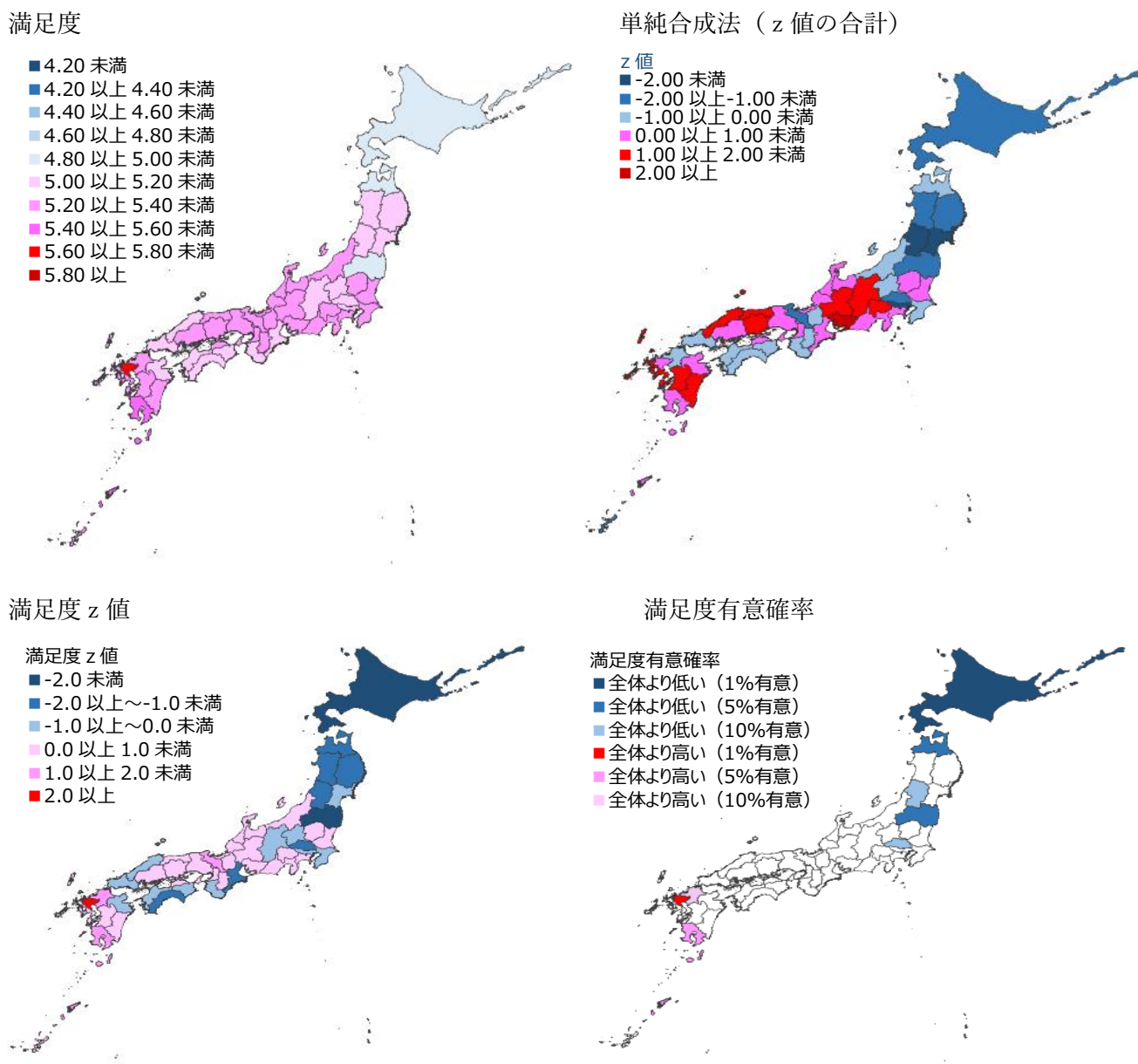
(2) 試算結果

客観指標	分野別満足度との相関係数	
	単純合成法	主成分分析第一主成分
① 合計特殊出生率 +②育児休業者割合 -③保育所等利用待機児童数(在所者数に対する割合)	0.50	-0.08

(3) 都道府県地図

下の図は、満足度(満足度調査による計測値の平均値)、標準化した満足度(z 値)、単純合成法(各客観指標の z 値の合成)、満足度の有意確率を日本地図に色付けしたものである。満足度の地図をみると、全体は薄い桃色のグラデーションとなっているが、「子育てのしやすさ」の満足度が5以下の県も一部みられる。また、単純合成法と満足度の z 値との比較では、同系統の配色が多いものの、一部、異なる配色の県がみられた。前項の相関係数はこのような状況を反映したものとなっている。加えて、各県の満足度を全体と比べた場合に、統計的有意水準を 10%とした場合でも8県であった。

図表 1-10-6 都道府県地図

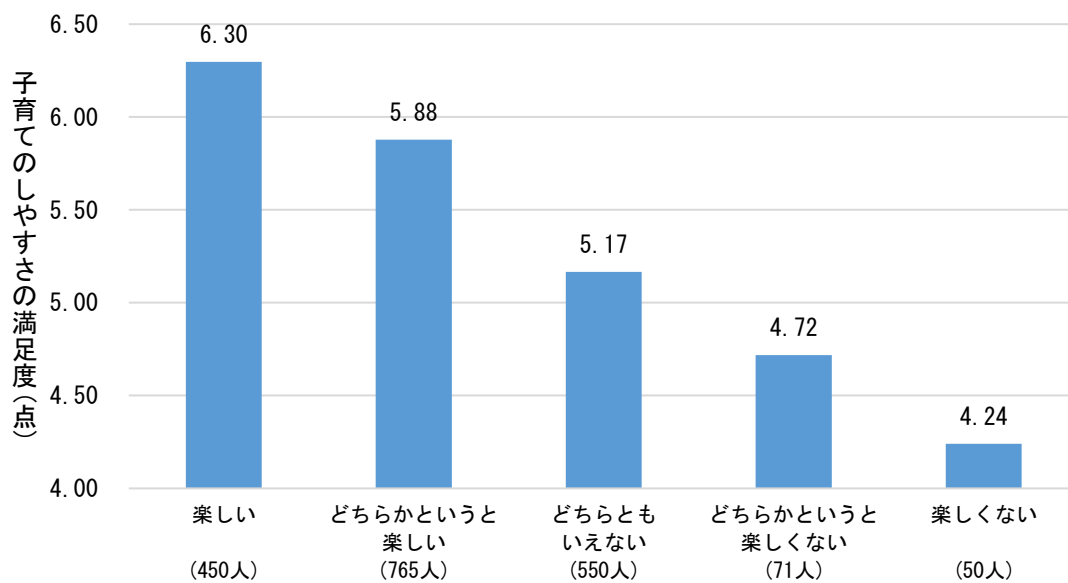


<コラム> 子育てについてどのように考えているか

回答者が子育てについてどのように感じているか、楽しいか楽しくないか等の回答結果と、「子育てのしやすさ」の満足度との関係を見ると、「楽しい」と回答している者の満足度は 6.30 と非常に高く、一方、「楽しくない」と回答している者の満足度は 4.24 と低くなっている。

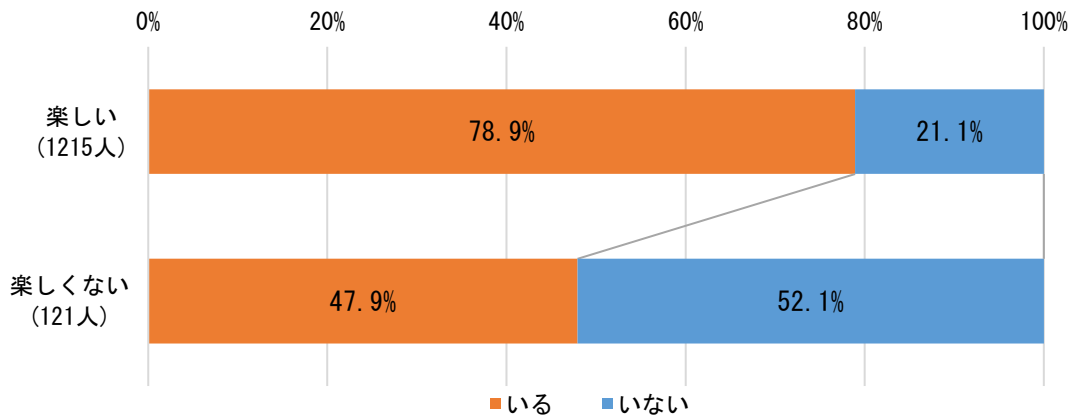
では、子育てを楽しんでいる者はどのような環境にいるのであろうか。子育てを気軽にお願いできる人の有無との関係を見ると、子育てを楽しんでいる者の約8割がお願いできる人がいるのに対し、楽しくないと感じている人の約5割がお願いできる人がいない、との回答だった。

図表 1-10-7 子育てについてどのように感じているかと
子育てのしやすさの満足度



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2020年調査)

図表 1-10-8 子育てについての感じ方と
子育てを気軽にお願いできる人

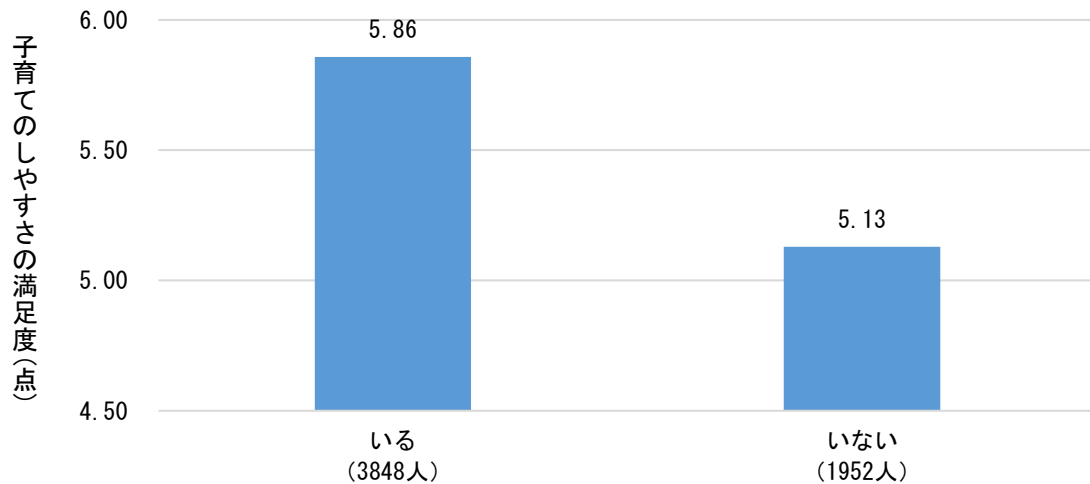


※楽しい：「楽しい」「どちらかという楽しい」のいずれかを選択
 ※楽しくない：「楽しくない」「どちらかという楽しくない」のいずれかを選択

(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2020年調査)

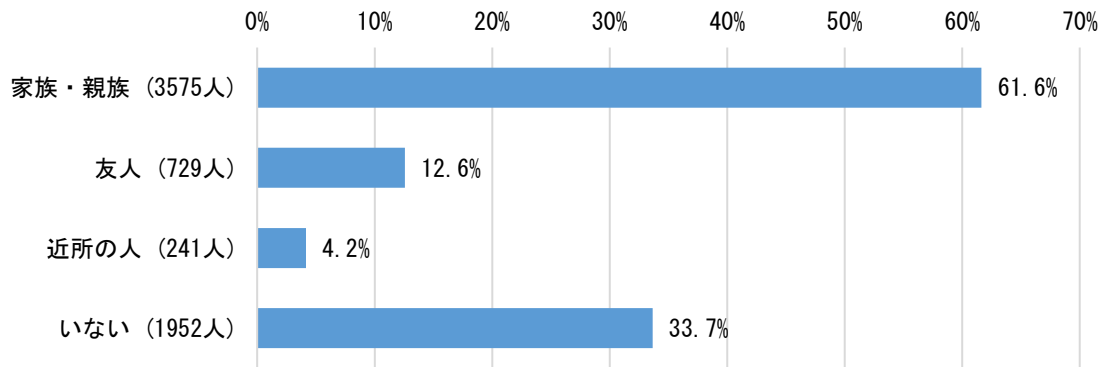
そこで、子育てを気軽にお願いできる人がいる者といない者の満足度についてみると、お願いできる人がいる者の満足度のほうが高いことがみてとれる。また、誰に子育てを気軽にお願いできるかをみると、家族・親族との回答が5割以上を占めているが、友人や近所の人にもお願いできる場合、満足度が高くなっている。

図表 1-10-9 子育てを気軽にお願いできる人の有無と
子育てのしやすさの満足度



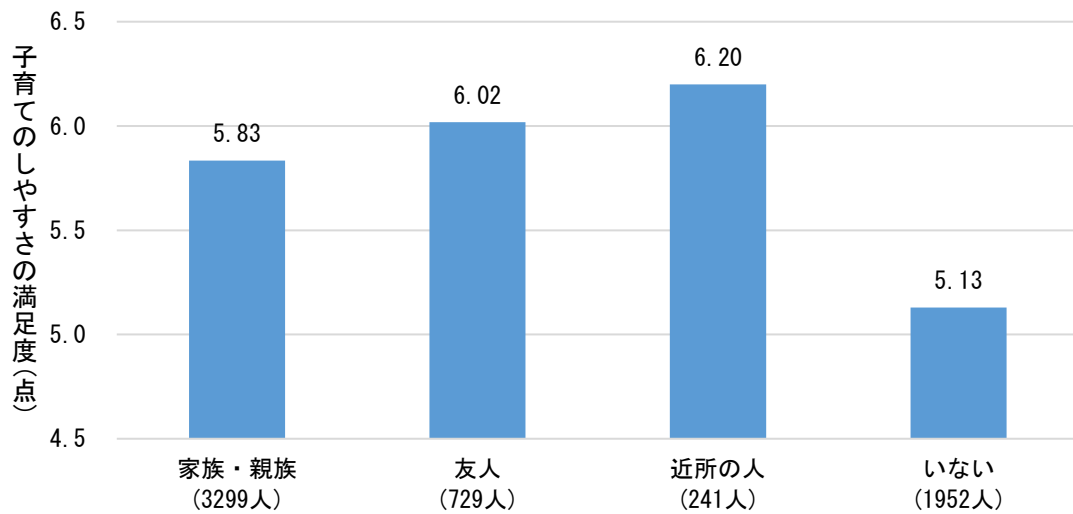
(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査
 (2019年調査・2020年調査)

図表 1-10-10 子育てを気軽にお願いできる人はいるか
(複数回答)



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査
(2019年調査・2020年調査)

図表 1-10-11 子育てを気軽にお願いできる人と
子育てのしやすさの満足度



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査
(2019年調査・2020年調査)

XI 介護のしやすさ・されやすさ

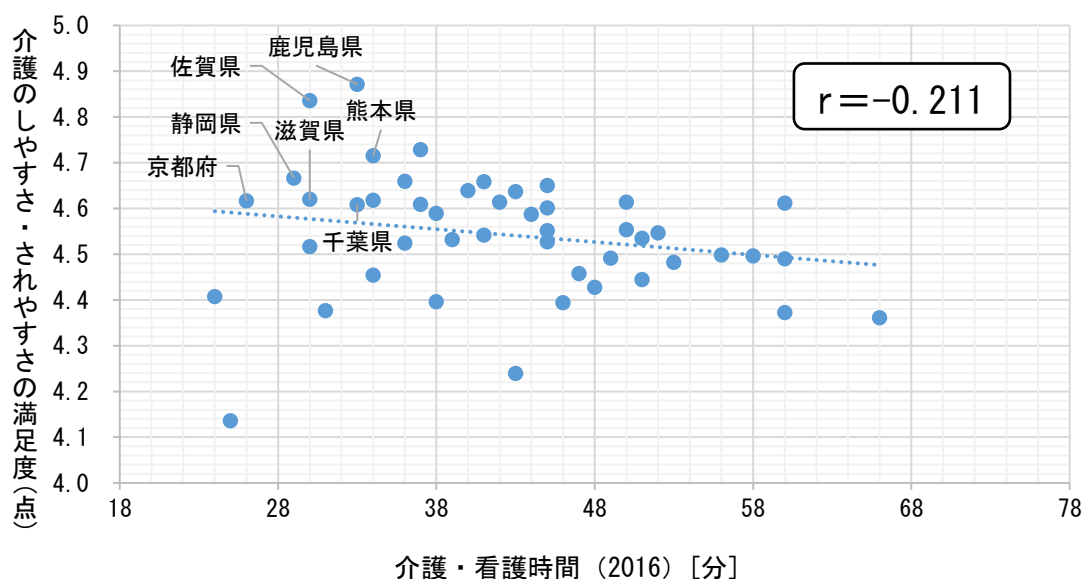
1. ダッシュボード指標の妥当性の検証

2019年7月に公表したダッシュボードでは、介護のしやすさ・されやすさに関する指標として「介護保険サービス受給者率」「介護休業制度の規定がある事業所の割合」「介護離職率」「介護している人の介護・看護時間」「介護している人の睡眠時間・自由時間」を採用した。ダッシュボード指標の妥当性を検討するため、これらの指標その他の関連指標について、「介護のしやすさ・されやすさ」の満足度(平均値)との関係を分析していく。

①介護・看護時間(介護する人)

介護する人にとっては、たとえ大切な家族の介護・看護であっても、介護・看護時間が長くなると疲労の原因となり、満足度低下の要因となり得る。そこで、都道府県別の「介護のしやすさ・されやすさ」の満足度と介護・看護時間との関係をみると、介護・看護時間の平均が長い都道府県ほど、満足度の平均値が低い傾向にあり、「介護・看護時間」のダッシュボード指標としての有効性を示唆している。なお、「介護・看護時間」が満足度に影響を与えることが直接的に明らかとなったことから、その裏側をあらわす「睡眠時間・自由時間」については、指標から削除することとする。

図表1-11-1 都道府県別 介護のしやすさ・されやすさの満足度と介護・看護時間の相関

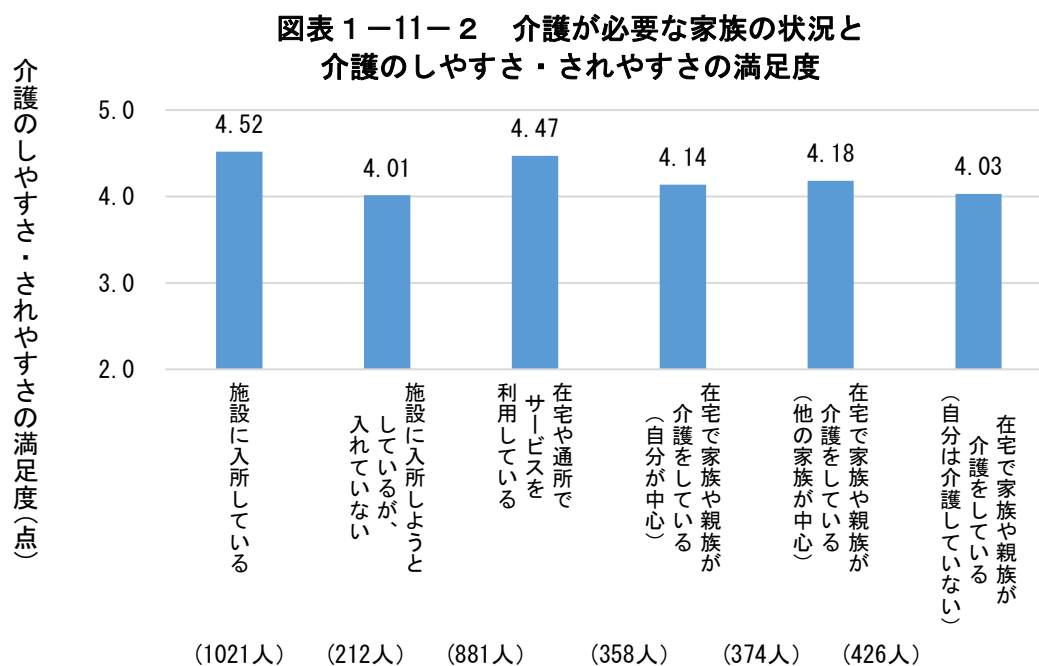


(出典) 総務省 社会生活基本調査
内閣府 満足度・生活の質に関する調査(2019年調査・2020年調査)

②介護施設に関する指標

介護する人にとっても、介護される人にとっても、介護施設が利用可能なことは重要である。介護施設が利用できない状態で介護を一人で抱え込むことは、介護と生活・仕事の両立を難しくする。

介護が必要な家族の状況と「介護のしやすさ・されやすさ」の満足度との関係を見ると、「施設に入所している」「在宅や通所でサービスを利用している」という回答者は、そうでない回答者よりも満足度が高い。

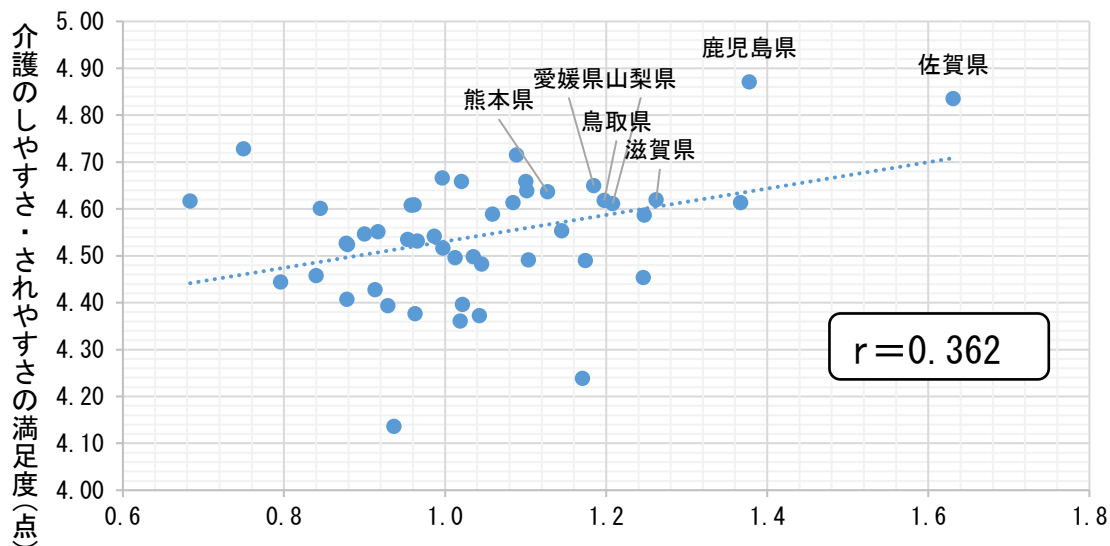


(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2019年調査・2020年調査)

次に、介護サービスとして、地域密着型サービスの事業所数と「介護のしやすさ・されやすさ」の満足度との関係についてみると、要介護認定者に対する事業所数が多い都道府県ほど、満足度が高い傾向にあることがみてとれる。

以上から、介護サービスを利用できることが、介護に関する満足度を高めていると考えられ、ダッシュボードで採用している「介護保険サービス受給者率(認定者に占める実受給者の割合)」が、指標として有効であることが示唆される。

図表 1-11-3 都道府県別 介護のしやすさ・されやすさの満足度と
地域密着型サービス延べ事業所数の要介護認定者に対する割合の相関



地域密着型サービス延べ事業所数の要介護認定者に対する割合[2017] (%)

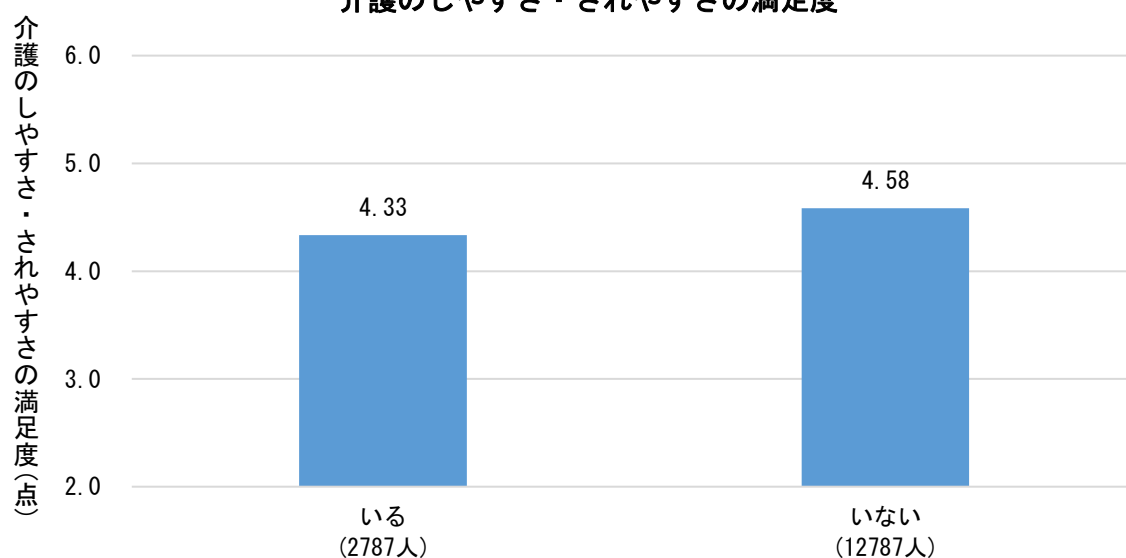
(出典) 厚生労働省 介護サービス施設・事業所調査、介護保険事業報告
内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2019年調査・2020年調査)

その他、ダッシュボード指標として採用している「介護休業制度の規定がある事業所の割合」と「介護離職率(離職者のうち介護・看護を理由とする割合)」については、「満足度に影響しているもの」の回答1位が、「自分や自分の家族が要介護状態になった場合の不安」であり、家族が要介護となった際の離職不安に関する指標であることから、継続採用することとする。

<コラム> 介護を必要とする家族の有無

「介護のしやすさ・されやすさ」の満足度は、11 分野の中で最も低い。それは、介護を必要とする家族がいる者の満足度が非常に低いからなのであろうか。そこで、介護を必要としている家族の有無と「介護のしやすさ・されやすさ」の満足度の関係をみると、介護を必要としている家族がいる者の満足度が4.33、いない者の満足度が4.58と、いない者の満足度も4点台と低い水準となっている。これは、介護を必要とする家族がいない者にとっても、現在の介護をめぐる環境を聞き及んだ結果、あまり満足できるものでないと感じているからといえよう。

図表 1-11-4 介護を必要とする家族の有無と
介護のしやすさ・されやすさの満足度



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2019年調査・2020年調査)

2. 「介護のしやすさ・されやすさ」の満足度を客観的に示す総合的な指標の作成(試行)

前節では、都道府県レベルで、「介護のしやすさ・されやすさ」の満足度と相関のある客観指標を確認することができ、「介護のしやすさ・されやすさ」の満足度が、介護・看護時間などと多面的な相関関係を有していることがみてとれた。そこで、複数の指標を合成することで、「介護のしやすさ・されやすさ」の満足度を客観的に示す総合的な指標を作成することを試みることにした。

総合的指標の作成方法として、①単純合成法(各客観指標を標準化(ここでは z 値を算出)して合成)、②多変量解析法(主成分分析等による重みをつけて合成)の2つのパターンを採用した。

「介護のしやすさ・されやすさ」の満足度を表す客観指標としては、要介護者の重度化の状態、介護サービスの状況(施設サービス、居宅サービス、地域密着型サービス)、家族の介護負担の面からとらえることとし、これらの面に対応する指標を選定した。要介護者の重度化の状態に対応する指標としては「要介護3以上の割合」を選定した。また、介護サービスに対応する指標としては、介護サービスの種類別に「施設サービスの状況(介護保険3施設定員と地域密着型特養定員の合計が要介護3以上の認定者数に占める割合)」、「居宅サービスの状況(医療系サービス事業所数の要介護認定者数に対する割合)」、「地域密着型サービスの状況(地域密着型サービス延べ事業所数の要介護認定者に対する割合)」を選定している。また、家族の介護負担に対応する指標としては「介護・看護時間」を選定した。試算結果は以下のとおりである。

試算結果をみると、単純合成法では相関が強めになっている。(0.47)他方、多変量解析法(主成分分析)で得られた主成分との相関は 0.1 台にとどまった。複数の主成分が抽出され1つの主成分にまとまらなかったと想定される。

(1) 選定指標

指標	単位	調査・統計	年	分野別満足度との 相関	指標の意味	備考
要介護3以上の割合(第1号被保険者に占める割合)	%	介護保険事業報告	2018	-0.11	重度化の状況	
介護保険3施設定員と地域密着型特養定員の合計が要介護3以上の認定者数に占める割合	%	介護保険事業報告、介護サービス施設・事業所調査	2017	0.13	施設サービスの状況	
医療系サービス事業所数の要介護認定者数に対する割合	%	介護保険事業報告、介護サービス施設・事業所調査	2017	0.37	居宅サービス(介護)の状況	
地域密着型サービス延べ事業所数の要介護認定者に対する割合	%	介護保険事業報告、介護サービス施設・事業所調査	2017	0.36	地域密着型サービス	
介護・看護時間	分	社会生活基本調査	2016	-0.21	家族の介護負担	

(2) 試算結果

客観指標	分野別満足度との相関係数	
	単純合成法	主成分分析 第一主成分
-①要介護3以上の割合(第1号被保険者に占める割合) +②介護保険3施設定員と地域密着型特養定員の合計が要介護3以上の認定者数に占める割合 +③医療系サービス事業所数の要介護認定者数に対する割合 +④地域密着型サービス延べ事業所数の要介護認定者に対する割合 -⑤介護・看護時間	0.47	0.13

(3) 都道府県地図

下の図は、満足度(満足度調査による計測値の平均値)、標準化した満足度(z 値)、単純合成法(各客観指標の z 値の合成)、満足度の有意確率を日本地図に色付けしたものである。介護のしやすさ、されやすさは、他の分野に比べ満足度が低いことから、満足度のグラフは青みが濃くなっている。また、単純合成法と満足度の z 値との比較では、同系統の配色が多いものの、一部、異なる配色の県がみられた。前項の相関係数はこのような状況を反映したものとなっている。加えて、各県の満足度を全体と比べた場合に、統計的有意水準を 10%とした場合でも9県であった。

図表 1-11-5 都道府県地図

